とかち新聞
主筆 松山明
(発行所) 北海道足寄町　とかち新聞社　電話5－2551番
毎旬5の日発行　1カ月200円 1カ年前納の場合2,000円

「経済大国ではない」

美濃代議士が語る

足寄町農民同盟（畠正吉委員長、盟友三百六十名）の組織結成三十周年記念式は十二月一日に公民館に来賓、役職員、盟友など二百余名があつまつてひらきました。

本谷重蔵事務局長の司会によつて、永井庄一副委員長、綱領斉藤祐一農協組合長からあいさつがあり、祝電の披露があつて、受賞者を代表して新要準雄町委員長から謝辞があつて、多治見敬一副委員長の閉会のことばで式をとじ、祝賀会に入りました。

この日の来賓祝辞のなかで美濃代議士は三十年のうち最初の十年は食糧の増産と国の復興が役割で、緊急開拓で何百戸も入植したが、ドツチ旋風の占領政策で二十三年にはこれが崩れ、これを守るために自主的に農民運動がおこなわれ、二十七年に平和条約が結ばれてその後は農民であるとして重税が課せられ、これを守るために自主的に農民運動がおこなわれており、午前十時に電気が入り、午前十二時に電気はひかれるようにと存じます

大誉地小学校は平常の暖房器の操作は自動装置によりおこなわれており、午前五時に電気が入り、午前十二時に自動操作により作動している事を、校長並びに公務補が確認しておりますが、十一月一日の朝は誰も確認してはおりませんでした

十一月十二日午前五時二十五分頃、大誉地市街の加賀谷よしさんが、仕事に出かけるため戸外に出たところ、学校に施設してあります火災報知器の屋外のベルが鳴つているのを聞きまして早坂公務補宅に電話で通報して下さいました

たまたま、公務補は不在でありましたが、奥さんが電話を受けまして直ちに校長宅に電話で連絡を致しました

校長は連絡を受けましてすぐ学校へかけつけ施錠を外し校内を点検しまして、午前五時三十分頃屋内体育館のドアーを開けましたところ、内部に煙が充満しておこないましたが、暗幕が短かく窓の下まで達しないため、他の暗幕を虫ピンでつなぎ床まで下げたわけですが、このため暗幕が暖房器に覆いかぶさる状態となりました

暖房器のスイッチにつきましては十一月十日自動操作により作動している事を確認しておりますが、十一日のときは誰も確認してはおりませんでした

校長は、すぐ学校へかけつけ、暖房器のスイッチを切りましたところ、北側ギヤラリーに上り見まわしましたところが、北側ギヤラリーの窓に張つてあつた暗幕が見えないので、北側ギヤラリーにかけ上つて見ましたところが暗幕は全部焼けて落ちてほとんど灰の状態でありましたが、幾らか残り火もありましたので、駆けつけた教師や部落の人達と一緒に消火を、暖房器が破損しているので配電室に行き、配電盤を確認したところ手動装置になつていて電気が入つていたので、スイッチを切りました

校長は鎮火を確認したのち、午前六時三十分頃電話で教育長に火災の報告をしました

教育長は次長とともに直ちに出発し、午前七時頃大誉地小学校に到着し校長より事情を聴き、現場検証の必要があるので現場をそのままの状態にしておくように校長に指示し、帰庁し、理事者に報告するとともに後消防署に通報をいたしました次第であります

その後、本別警察署、足寄消防署が建設課、教育委員会、管財課、北電陸別電業所、北見電気保安協会、北海道電気暖房株式会社の立会によりの原因等の調査を十一月十二日及び十三日の二日間にわたり現地をいたしました

調査の結果出火推定時刻は暗幕に火がつき、燃え落ち灰になつた時間は約一時間と考えられる

①電気暖房器（ヘインターサーモ）の安全装置が充分に作動しなかつたために、器具の温度調節が出来なくなり、放熱をする特殊液体（ユチレン、グリコール34%、水64%錆止め2%）の入つているオイルチューブが破裂して、内蔵されている電線の入つている銅パイプが外部に湾曲して突き出たため、その熱により暗幕に引火した

②暗幕を取付けの際に暗幕が暖房器の熱せられた空気の出て来る前側を覆つていたため、熱せられた空気が循環出来なく、暗幕が異常に熱せられ発火したにおい願いし、いずれは神作に変つていたため、電気が長時間にわたり、通電された暖房器の安全装置が対応出来なくなり破裂し出火した

以上のように、色々な条件による原因が考えられ、判然とした原因がつかめないために、警察では破裂した暖房器と新らしい暖房器を釧路方面本部に持参しまして、実験をし調査することとなりましたが、調査の結果は、早くても六ケ月程度を要するという釧路方面本部鑑識課の意見により、校長は直ちに教育委員会に報告し、教育委員は消防署、警察署、役場関係課に連絡するとともに管理課長、総務係長を現地に派遣し調査をさせました

煙の出た原因につきましては、暖房用電気配線（単線）と暖房器の配線（ワイヤー状に細い線が一束となつた線）との結線の方法が不良のために、スパークをし結線部分を被覆してあつたテープが燃焼しその煙が出たものと判明し屋体の出火とのつながりは全くないという、警察、消防の一致した意見であります

しかし町及び教育委員会では今回被害はありませんでしたが、この様な箇所があれば今後何時火が出るか判らないので、電気工事施行業者の池田町北口電気を呼び状況を説明し手直しを命じましたところ、直ちに手直しすることを了承しまして翌十五日午前十時より暖房器につきまして、北海道電気暖房KKが点検をおこなうことといたしましたので、付け加えご報告いたします

太誉地小学校の事故につきましては以上のとおりであり、電気関係の事故により、町の財産に損害を与えました事は、町民の皆様に対しまして大変申し訳けなく、深くおわびを申し上げる次第でございます

末だ事故の原因はつかまれておりませんが、教育委員会といたしましては、管理の上でのミスが事故につながつたものと考えまして今後この様な事故を絶体おこさない様、管理下の各施設に対しまして、充分指導を徹底いたしますとともに電気暖房暖房などの定期保守点検をおこない、故障箇所の早期発見による事故の未然防止につとめ、整備を進めて参りたいと考えております

なお同じ電気暖房暖房を使用しております、中足寄小学校、東小学校、足寄中学校、上利別中学校の電気暖房器につきまして、北海道電気暖房KKが点検をおこなうことといたしましたので、付け加えご報告いたします

海一郎、矢野寛一、石田富男、多治見敬一の各議員から質疑がありましたが、事件はすでに道警釧路方面本部で鑑識捜査の段階で六カ月はかかるといわれ、町の監査委員も町議会の交教委員会でも調査中なので、その結果を待つことにして、午前十一時十五分に本会議を一時間休憩とし、理事者提案の議員報酬や町三役の期末手当減、一般職の給与改定にともなう各会計予算補正など十三件を原案どおりに議決して午後三時近くに閉会しました。

大誉地小で電気暖房の出火

足寄町議会

足寄町議会の第七回臨時会は十一月三十日午前十時に召集（欠席は斉藤祐一、阿部俊夫、遠山謙の三氏）会議に先立つて新津教育委員長からつぎのように行政報告がありました。

『大誉地小学校屋内体育館の出火事故などにつきまして、ご報告いたしますと共におわびを申しあげたい存じます

また屋体は、十一月十九日に行なわれる学芸会の準備のため、十一月十日に北側のギヤラリー（出火場所）十一日に南側のギヤラリーの窓に暗幕を張る作業をおこないましたが、暗幕が短かく窓の下まで達しないため、他の暗幕を虫ピンでつなぎ床まで下げたわけですが、このため暗幕が暖房器に覆いかぶさる状態となりました

暖房器のスイッチにつきましては十一月十日自動操作により作動している事を、校長並びに公務補が確認しておりますが、十一日のときは誰も確認してはおりませんでした

十一月十二日午前五時二十五分頃、大誉地市街の加賀谷よしさんが、仕事に出かけるため戸外に出たところ、学校に施設してあります火災報知器の屋外のベルが鳴つているのを聞きまして早坂公務補宅に電話で通報して下さいました

たまたま、公務補は不在でありましたが、奥さんが電話を受けまして直ちに校長宅に電話で連絡を致しました

校長は連絡を受けましてすぐ学校へかけつけ施錠を外し校内を点検しまして、午前五時三十分頃屋内体育館のドアーを開けましたところ、内部に煙が充満してお